

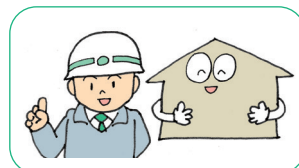
事前の備え

住宅の耐震化

過去の大地震の被害状況から、昭和56年以前に建てられた、いわゆる旧耐震基準の建築物の被害が大きいことがわかっています。まずは、自分の家がいつ建てられたか確認しましょう。

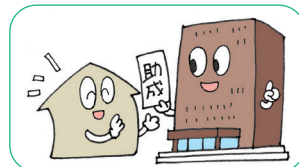
1 耐震診断を受けましょう。

旧耐震基準で建てられた建物は、地震により倒壊する可能性があります。耐震診断を受け、自分の家が安全かどうか確かめましょう。



2 耐震診断に対する助成制度

札幌市では、昭和56年5月以前に建築された木造住宅に対して、耐震診断員の派遣制度や耐震化に要する費用の一部を補助する制度を実施しています。



【問合せ先】 都市局建築指導部建築安全推進課

電話 011-211-2867

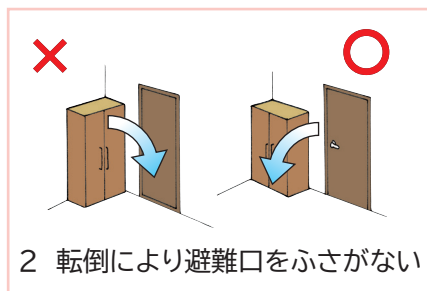
家具の固定と安全確保

1 大型の家具や家電はしっかり固定しましょう。



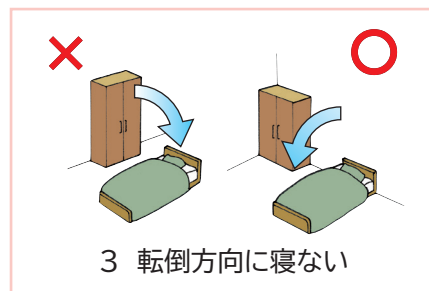
1 大型の家具など固定

2 家具の転倒により避難口をふさがないように配置しましょう。



2 転倒により避難口をふさがないように

3 家具の転倒方向には寝ないようにしましょう。



3 転倒方向に寝ない

停電への備え

平成30年に発生した北海道胆振東部地震では、道内で長時間にわたり停電となりました。停電は日常生活に様々な支障をきたします。

1 カセットコンロや電源を準備しましょう。

IH調理器や給湯・暖房設備は使用できません。カセットコンロやポータブルストーブ、充電式ポータル電源などを準備しましょう。

発電機は一酸化中毒による死亡事故が発生する恐れがあるため、屋内では使用しないでください。

2 モバイルバッテリーを準備しましょう。

携帯電話やスマートフォンは、家族との連絡、各種情報の入手に有効です。日頃から充電を心がけ、乾電池式のモバイルバッテリーなども準備しましょう。

3 車のガソリンは多めにしておきましょう。

車が使えれば、暖をとったり、テレビ・ラジオの視聴やシガーソケットからの充電が可能です。日頃からガソリンは多めに心がけましょう。

4 水を確保しましょう。

断水し、トイレも流せなくなります。飲料水の準備やお風呂に水をためるなど、水を確保しましょう。（マンション等、高層階の方は注意しましょう。）

5 停電復旧時の火災に注意しましょう。

停電復旧時に電気が通ると火災の恐れがあります。停電時はブレーカーの電源を落とし、復旧後に電源を入れるようにしましょう。



充電式ポータブル電源



発電機